

目指せ！　さいたま考古マスター

君に**挑戦**！　これなんだ??

第 5 回

さいたま戦国のおわり編

かいせつ

後編　戦国のくらしと新しい時代の幕開け

問題　その 5 ～　問題　その 8

その5 焼き物みたいだけど、形がへん。

これなんだ？

次の二つの中からえらんでね！

1. 「石けい」

ケン、ケン、パッ？

2. 焼き物の破片を使った砥石（といし）

これは便利だ？



ヒント 割れ口がつるつるしているような・・・。

答 え 2. 焼き物の破片を使った砥石（といし）

解 説

これは、「常滑焼（とこなめやき）」っていうやきもののカメの破片なんだ。これだけだとなんだかよくわからいね。そこで、ほぼ完全な形で残された「常滑焼」のカメの写真を用意したよ（下の写真）。

これは、桜区の大久保領家遺跡（おおくぼりょうけいせき）から出土したものだ。高さ65.6cm、最大径74.0cmもある大きなカメなんだ。液体をためておくのになくてはならない道具だったんだよ。この大久保領家遺跡のカメは、室町時代のおわりから戦国時代のはじめ頃のものなんだ。

問題の写真は、カメの口のところの破片を再利用して、金属などをみがいたりする道具、つまり砥石（といし）として使ったものなんだよ。もとのカメは、見本で出した大久保領家遺跡のカメよりも100



大久保領家遺跡出土の常滑焼のカメ
※さいたま市指定文化財（市立博物館で常設展示）

年くらい前（14 世紀後半頃、南北朝・室町時代）に焼かれたものなんだ。一般的には、カメは丈夫な焼き物なので、焼かれた時代と、使われなくなった時代が離れていることが多いと考えられるんだ。このカメが出土した遺跡の中でも、14 世紀代にさかのぼる遺物はほとんどなくて、遺物の中心的な時代は戦国時代、それも 16 世紀のなかばから後半なんだよ。このカメの破片が砥石として再利用されたのは、戦国時代になってからかもしれないね。



- 中央区・今宮 2 号遺跡（いまみやにごういせき）出土
- 南北朝・室町時代

その6 石が二つくっついている。

これなんだ？

次の二つの中からえらんでね！

1. バランスをとる練習中

おととととと？

2. 石材に転用された板碑(いたび)を元の

形にもどしているところ

ん？



ヒント

上のものはどこかで見たことがあるような・・・。

答 え

2. 石材に転用された板碑（いたび）を元の形にもどしているところ

解 説

第1回の挑戦のときに「問題 その8」で取り上げたのが、上の破片。その時のかいせつに、「この板碑は、13の仏をまつていることから、『十三仏板碑』（じゅうさんぶついたび）と呼ばれるもので、偶然残ったほかの破片から、1551～1555年頃に村の人々が集まって建立したものであることがわかります。」って書いてあったんだけど、おぼえているかな？

そこにある「偶然残ったほかの破片」というのが、下の破片なんだ。上の破片は、砥石（といし）などに転用され、下の破片は黒くなったり、薄くはがれているところがあることからわかるように、カマドなどの火をたく設備の材料に使われたようなんだ。この二つが元通りにくっついたこと自体、整理作業をお手伝いいただいた方の根気と熱意のたまものなんだよ。そして、そこから、これが「十三仏板碑」だっていうことと、「1551～1555年頃に村の人々が集まって建立したものであること」がわかったんだよ。

もとの形といつ、だれが この時代の板碑から類例を探して、それを参考にして元の形を復元してみると、次のページの図のようになるんだよ。

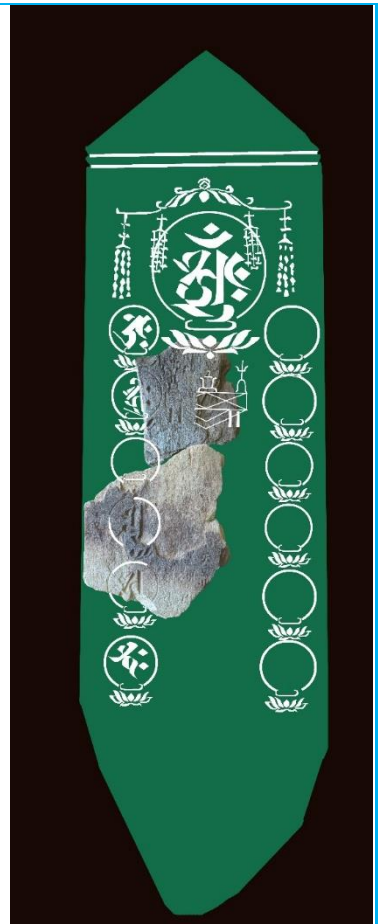
一番上のところに大きな円に囲われた記号、その下の左右に6個ずつの記号があるね。その一つ一つが仏様を表す文字なんだ。それぞれが仏様なので、蓮の台座に乗っているんだよ。一番大きな仏の前には、花を生けた花瓶や香炉をのせた机があり、そ

の下に、いつ、だれがこの板碑を建てたのか、ということが刻まれているんだ。

残念ながら、「いつ」と「だれ」を示す文字は少ししか残っていないんだけど、「天文廿」という文字が右はしのあたりにあるんだ。これは「天文（てんぶん）」という年号。

「廿」は「二十」のこと。天文という年号は、24年まで続いたんだ。廿の下は割れてしまっていて、廿年なのか、廿〇

年なのかはわからないんだ。でもここから、天文20年から天文24年の間、西暦だと1551年から1555年の間に建てられたことがわかるんだ。そのまわりには「弥三郎（やさぶろう）」や「小三郎（こさぶろう）」という名前が見えるよ。



ここに名前を連ねた人たちは、村の人々。その人たちが集まって、仏の供養を行ったんだ。村の人たちが共同・団結して、厳しい戦国の世を乗り越えていく祈りをささげ、安穏を願う心がこめられた板碑。こうした板碑をみんなで建立すること自体が、人々の団結を強めるきっかけにもなっていたんだ。

この板碑が建てられたころ この板碑がたてられたころは、戦国時代の真っ最中。そのころの大きなできごとをまとめてみると、次のようになるよ（次のページの表を見てね）。

さいたま市周辺は、1548年を境に、合戦の舞台になることはしばらくなくなっていたんだね。もしかしたら、この板碑は、そうしたつかの間の平和の中で、それまでの戦乱で亡くなった人を供養したり、平和がずうっと続くように、っていう願いを込めて建てられたのかもしれないね。

板碑の石材化 ところが、この板碑は、建てられた場所からとりはずされ、むさんにも細かくわられて、石材として使われることになったんだ。上の破片は、さっきの「常滑焼のカメ」と同じように、砥石のかわりに使われたんだ。下の破片は、たぶん火を使う場所を作るための材料として使われたんだ。ところどころ黒ずんでいるところがみえると思うけど、そこは火を直接受けたところ、その下の黒ずんでいないところは、他の石材と重なったりしていて、火に直接はさらされなかったようだね。でも

西暦	年号	全国のできごと	関東のできごと
1546	天文 15	足利義輝が室町幕府将軍となる。	河越夜戦。小田原の北条氏康が古河公方足利晴氏、関東管領上杉（山内）憲政、上杉（扇谷）朝定の連合軍を破る。
1547	天文 16	足利義輝が細川晴元に敗れ、近江国に逃れる（その後和睦）。	北条氏康方であった岩槻城主太田全鑑が死去し、反北条氏の太田資正が岩槻城主となる。北条氏康が岩槻城を攻撃。
1548	天文 17	尾張国の織田信長が美濃国の斎藤道三の娘と結婚する。	岩槻城主太田資正が北条氏康と和睦し、その配下に属する。
1549	天文 18	三好長慶が足利義輝を追放して、京都を支配する。	北条氏康が松山城の普請を行う。
1550	天文 19	足利義輝・細川晴元らが三好長慶に敗れ、近江国に逃れる。	北条氏康が山内上杉氏の本拠・上野国平井の攻撃を開始する。
1551	天文 20	中国地方の大名大内義隆が家臣に滅ぼされる。	古河公方と北条氏康が和睦する。
1552	天文 21	三好長慶が近畿地方に大きな勢力を築く。	関東管領上杉憲政が北条氏康に敗れ、越後国の上杉謙信を頼る。
1553	天文 22	川中島の戦い（第一次）。武田信玄と上杉謙信が戦う。	北条氏が房総方面に侵攻する。
1554	天文 23	武田氏・今川氏・北条氏が和睦する。	古河公方による反乱を北条氏康が鎮圧し、その本拠・下総国古河城を接収する。
1555	天文 24	毛利元就が陶晴賢を安芸国厳島で滅ぼし、中国地方の大大名となる。	北条氏の房総への侵攻が続く。また常陸国佐竹氏との緊張が高まる。

※人名は、一般に知られている名前であらわしました。

例：上杉謙信・・・この当時は「長尾景虎（ながおかげとら）」と名乗っていましたが、よく知られている「上杉謙信」としてあります。

上の破片と比べると、色合いが白っぽくなっているのがわかるかな。ここは、熱の影響で色が変わってしまったところだよ。

ところで、織田信長が第 15 代室町幕府将軍・足利義昭（あしかがよしあき）のために京都に造った二条城（にじょうじょう）では、石垣（いしがき）に石仏などが使われていて、これは古い世の中のしくみをこわして新しい時代を切り開いた信長らしいことだ、っていわれたこともあったんだけど、戦国時代の城の発掘調査が進むと、あちこちで同じような例が見つかるようになったんだ。つまり、村や町の人々が建てた石仏などを集めて石材として使うようなことは、信長に限ったことではなかった、ってということがわかってきたんだ。じっさい、さいたま市でも、戦国時代の岩槻城では、今回の問題と同じように板碑を砥石などに使った例がたくさんあるし、溝のフタや敷石に板碑を使ったりした例も見つっているんだ。

石材化したのはだれ？ そうすると、板碑などの石塔・石仏を石材に使う、という

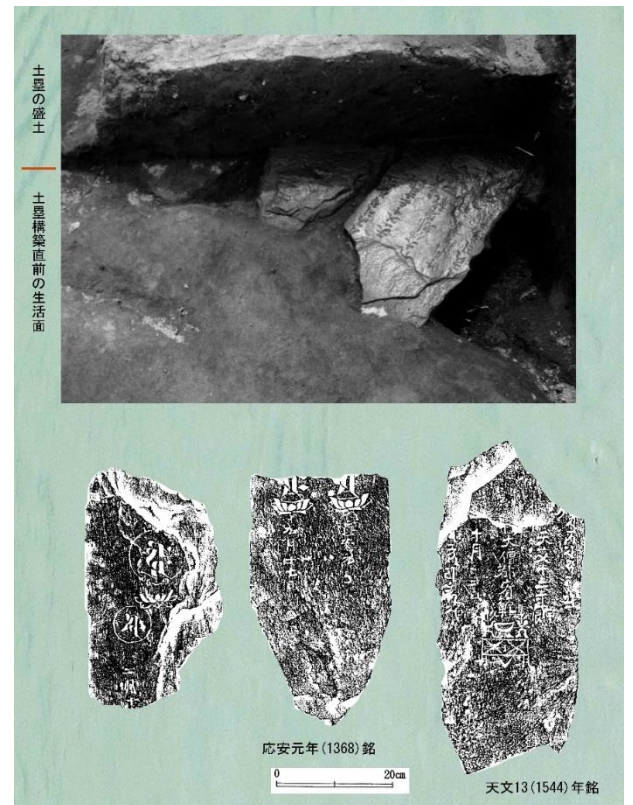
うことは、戦国時代には決して珍しいことではない、っていうことになるね。でも、どこでも、だれもが、そういうことをしていたかっていうと、決してそんなことはないよ。それに問題の板碑が元の場所から運びだされ、割られて、道具や材料とされたのは、建てられてから20年たつたたたないか、っていうころだったようなんだ。さまざまな願いや祈りをこめてこの板碑を建てた人たちだって、まだ活躍していて、あるいはお父さんやお母さん、おじいさんやおばあさんが、心をこめて建てた板碑だ、っていうことは、地域の人々にも受け継がれていたと思うんだよね。そういう大切なものを、みずから進んで割ったり、削ったりしようとは思わないんじゃないかな。

だとすると、元の場所から板碑を運びだした人、板碑を祈りのこめられたものとしてではなく、石材として考えられる人、それは村の一員ではなく、村の人たちに意に反することでもさせることができた人だと思うんだ。それは恐らく、村々を支配する武士。抵抗すれば、武力で命令に従わせることができた武士たちだから、村の人々が大切にしている板碑を集め、石材にすることができたんだと思うよ。

武士ならいつでも、だれでも？

でも、ここで一つ気を付けなければならないことがあるんだ。それはね、武士たちは力づくだけで村の人たちを支配していたわけではなくて、村の人たちに納得してもらいながら支配をしていたことなんだ。最後の最後には力づくも辞さないけれど、ふだんは村の人たちだけでは解決できないことを処理して、村の人たちが納得するような仕事をしたり、仕組みを作ったりしていたんだ。武士は、村の人たちから恐れられながら、信頼されることが大切だったんだ。

だから、たとえば「砥石（といし）がすり減っちゃったから、ちょっと村に行って板碑をとってきて、砥石がわりに使っちゃおう」なんてことを普段からする、なんてことは考えられないんだよ。そんなことを日ごろからしていたら、村の人たちからう



岩槻城跡（岩槻区）で敷石に使われた板碑

※上の写真は、戦国時代後半の城の地面に敷かれた板碑と、その面を廃止して城を大改造したときに造られた土塁の下部。下の写真は敷石に使われていた板碑の文字などを紙に写しとったもの（たく本）。右はしの板碑は、天文13年（1544）に大僧都育範（だいそうづゆうはん）というお坊さんの供養（くよう）のために建てられたもの。

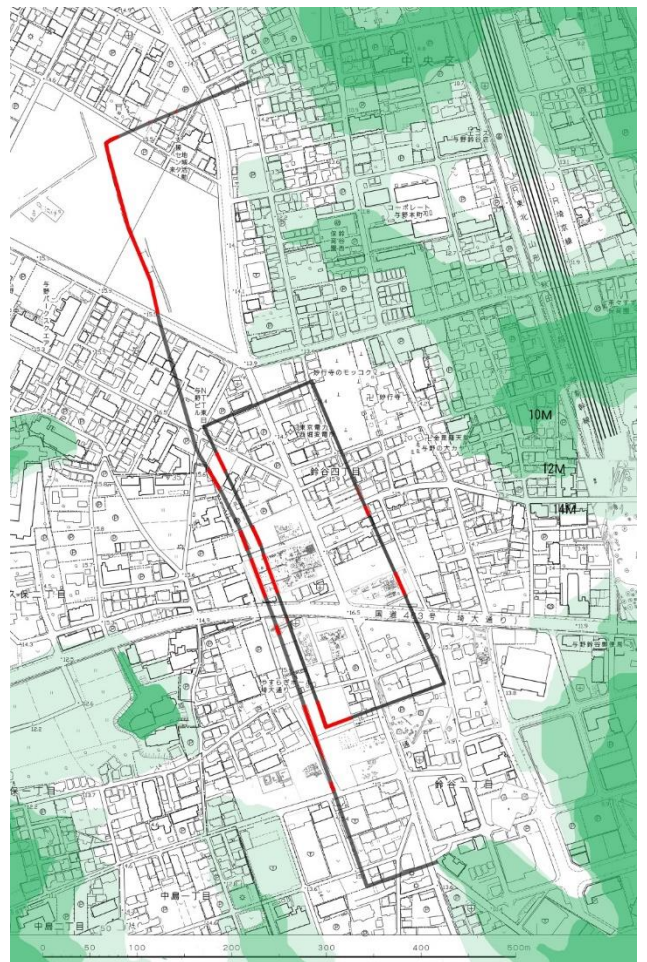
られ、信頼を失ってしまうからね。

こんなふうに考えてくると、村の人々の祈りを踏みにじってでも、石材として板碑を集めなければならない何らかの事情があった可能性が浮かび上がってくるんだ。そしてそれは、村を直接支配する武士の意思というよりも、彼らよりも上位の者の命令による可能性が考えられるんだ。

実はこのころ、この板碑が出土した今宮2号遺跡では、新しい土地区画を造る大工事が行われたんだ。そしてその区画は、江戸時代になると使われなくなって、あっという間に畑に再開発されたんだ。つまり、戦国時代の終わりころに、次の時代には継承されない大土木工事がおこなわれた、っていうことになるね。その工事の規模から想像すると、それは村の人々が考えて、村のために行ったものとは考えられないんだよ。じゃあ、村を支配する武士が行ったのか、っていうと、そこにも問題があるんだ。

この工事のあとが見つかった時には、このあたりを支配する武士の館（やかた）だっていて、「今宮館（いまみややかた）」っていう名前が付けられたりしたこともあるんだけど、戦国時代の武士の館と考えるには、おかしいところがたくさんあるんだ。むしろ、この大工事とそれによって造られた土地区画は、街道の整備とも深く関わっている可能性があるんだ。これは、戦国のおわりのころのさいたま市のようすを考える上で、とても大きな出来事かもしれないんだよ。

小さく割られた板碑のことから始まって、大きな謎の区画のことにまで話がおよんだけど、この区画のことについては、また別のときに挑戦の問題にだすよ。



今宮2号遺跡（中央区）周辺の謎の区画

※戦国時代後半の今宮2号遺跡とその周辺には、堀でかこわれた二重の区画があったんだ。濃淡の草色は、地形が低くなっているところ（谷のあと）。この区画のようすは、与野郷土資料館でも展示されているよ！

■中央区・今宮2号遺跡（いまみやにごういせき）出土

■戦国時代

その7 深い穴のそこにお皿が1まい。

これなんだ？

次の二つの中からえらんでね！

1. 犬が「ここ掘れ、ワン、ワン」というので

掘ってみたら、カワラやセトカケがでて

きた様子

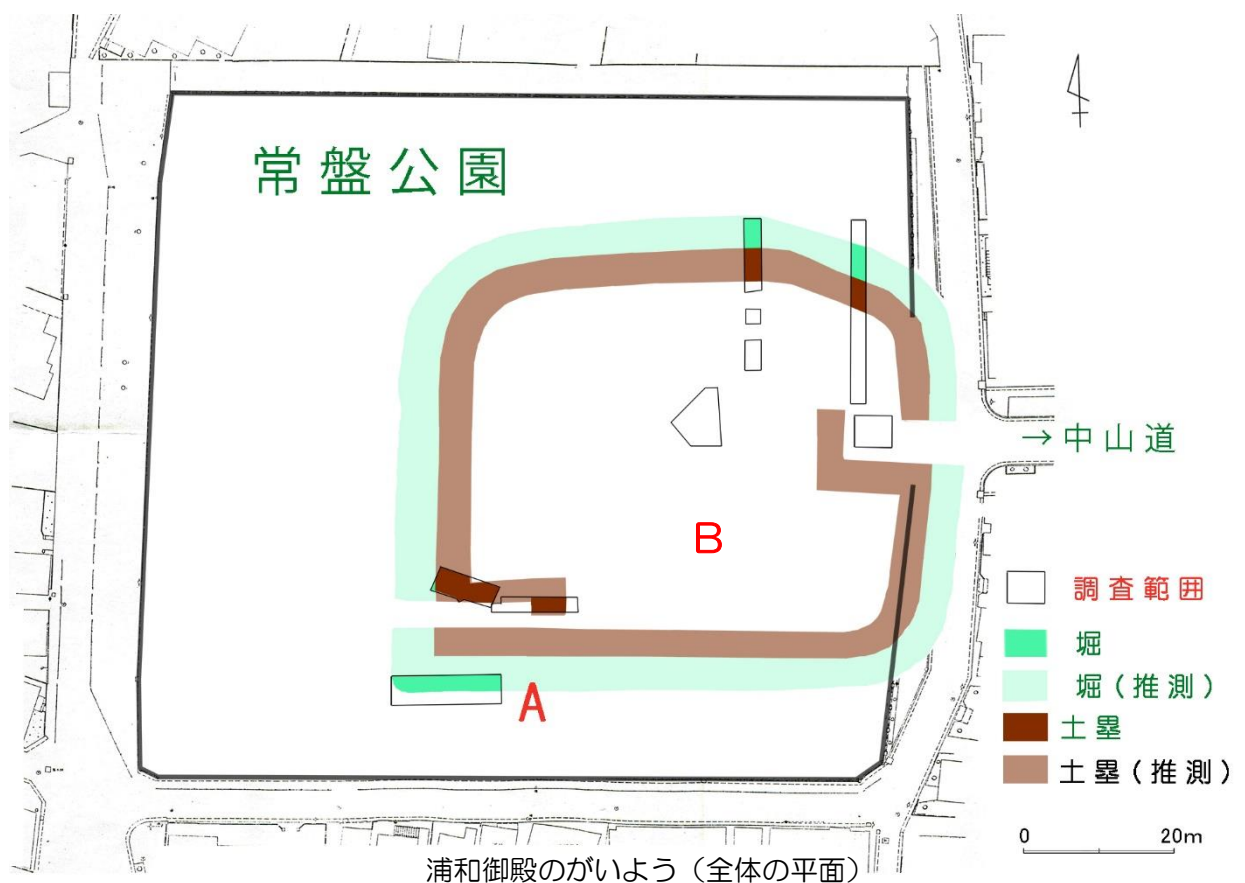
まいても枯れ木に花はさかない？



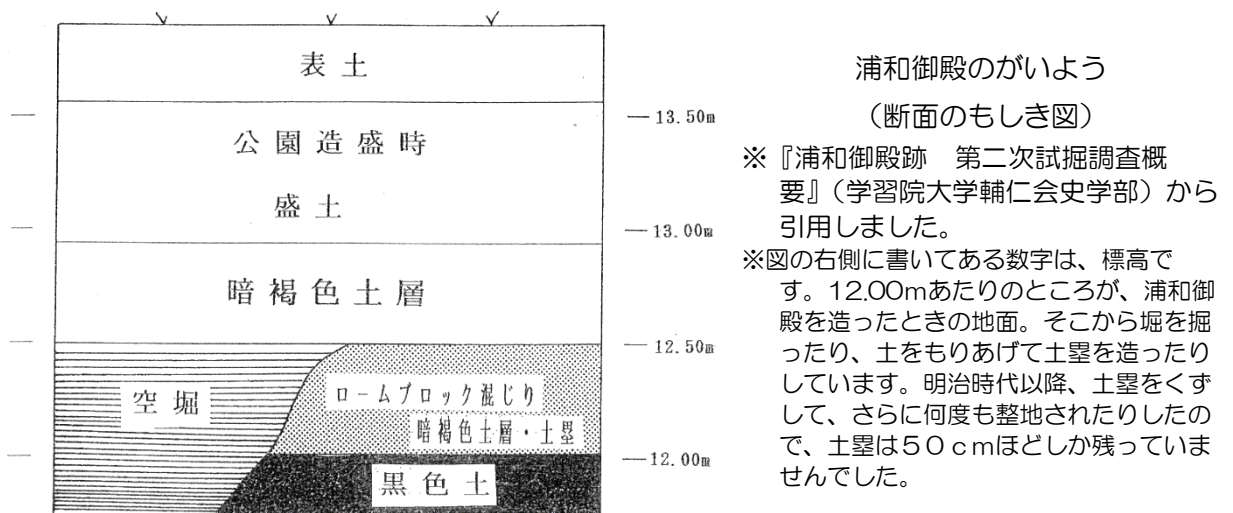
2. 浦和御殿の堀(ほり)あとから、お皿がみつかったようす

大判、小判よりも大切だ！

ヒント	知識や心はとっても豊かになるなあ・・・。
答 え	2. 浦和御殿の堀（ほり）あとから、焼き物がみつかったようす
解 説	写真は、浦和御殿で行われた発掘調査の様子。うつっているところの大部分は、浦和御殿のまわりにめぐっていた堀のあとだよ。この堀と、みつかった焼き物の説明に入る前に、まず浦和御殿の発掘調査のことを説明しておくね。 浦和御殿では、平成8年（1996）と平成9年の2回、発掘調査が行われたんだ。その発掘調査を行ったのは、国立歴史民俗博物館（平成8年）と学習院大学輔仁会史学部（平成9年）の皆さん。江戸時代の浦和宿の絵図（えず。むかしの地図）や明治時代のはじめのころの地図から、浦和御殿のあった場所はけっこう正確にわかっていたんだけど、くわしいようすはわかっていなかったんだ。それで、歴史上重要なものである浦和御殿のことを解明し、そのころ研究が進んでいたほかの御殿との比較研究ができるようにするために、この発掘調査が行われたんだ。 浦和御殿があった場所は、現在の常盤（ときわ）公園になっているところ。明治時代以降の土地利用の結果、すでに浦和御殿当時の地盤がこわれてしまっているところもあって、調査は難航（なんこう）したということなんだけど、最終的には、浦和御殿のまわりをかこっていた堀のあとや、堀の内側に造られていた土塁（どるい）のあ



※『浦和御殿跡 第二次試掘調査概要』(学習院大学輔仁会史学部)の掲載図をもとに作成しました。さらに調査が進むと、全体の形は修正される可能性があります。なお、問題の写真は、Aの左のあたりの写真です。Bは問題その8の茶碗が見つかった場所です。



となどが見つかったんだよ。これはすごいことだ!! 調査結果の概要を図にしたのが、上の図だよ。

さて、堀はほうっておくと、まわりから土が流れ込んだり、土塁や堀のかべが風化してくずれたり、落葉がたまったり・・・地表面でおきるいろんな作用によって、どんどん埋まっていくなだよ。まわりの人がいなくなったものを捨てたり、なんてこともあるし、宿題その2の「かいせつ」でも紹介したように、火事がおきたあとに燃え残った材木などを投げ込んだり、っていうこともあるね。でも、そんなことをして

いたら、あっという間に堀が埋まり切ってしまうから、堀を使っている間は、ときどきたまった土などをさらう作業が行われるんだよ。大きく崩れた所があれば、その修理もするね。浦和御殿の発掘で見つかった堀でも、底の方に落葉などがくさってできた真っ黒い土がたまっていたけど、まわりから流れ込んだりくずれ落ちたりした土はほとんどたまっていなかったようなんだよ。堀を廃止して、埋めもどすまで、きちんとメンテナンスしていたことがわかるね。そして問題の焼き物は、堀のそこに落葉などがたまってきた真っ黒い土の一番上のあたりからみつかったんだ。

さて、前置きが長くなったけど、じっさいに見つかった焼き物は、こういうもの。



みつかった焼き物 そめつけ（染付）わんのふた

※「そめつけ」は高温で焼かれたかたい焼き物の仲間です。藍色の絵の具でさまざまなもようが描かれているのがとくちょうです。

これは、おわんのふたなんだよ。淡い藍色でいろんな模様がえがかれていて、とてもいねいに作られていることがわかるね。写真の右側は、内側の写真。ふたをしているときには見えないところにもきちんと模様がえがかれているね。ふちにそって四角い模様がぐるっとまわっているのは、雷文（らいもん）っていう模様。ラーメン屋さんのおどんぶりに同じ模様がついているときがあるよ。古代中国にはじまる模様だよ。形や模様の付け方などから、江戸時代の後半に作られたものだっていうことがわかるんだよ。

あれ？浦和御殿は徳川家康のころのものだったよね？きちんとメンテナンスされていた堀のその方から江戸時代後半のものがみつかった、っていうことは・・・。

そう！浦和御殿の堀は、江戸時代の後半まで廃止されずに残っていたんだね。発掘調査でいろんなことがわかり、そこからまた新しい課題が発見されているんだよ。

■浦和区・浦和御殿（うらわごてん） 堀底からおわんのふたがみつかった様子

■江戸時代

その8 うつわについた無数の線。

これなんだ？

次の二つの中からえらんでね！

1. おろし目

第1回の挑戦で出たから間違

いない？

2. お茶をたてたあと

シャツ、シャツ、シャ、シャ・・・



ヒント	これは青磁（せいじ）っていう高価な焼き物です。
答 え	2. お茶をたてたあと
解 説	「こたえ」のところで説明したように、「茶の湯」では、ちゃせん（茶筌）という道具を使うね。お茶の葉を粉にした抹茶（まっちゃ）を茶わんに入れ、お湯をそそぎ、ちゃせんで作法にしたがって混ぜるんだよね。そのとき、茶わんにちゃせんの先があたって細かいキズがつくんだ。それが細かい線になるんだよ。 青磁（せいじ）っていうのは、中国で始まった焼き物の一種だよ。焼き物には、焼き上げるときの温度や使う粘土、表面にガラス分の薬（うわぐすり、というんだよ）をかけるかどうかなどによって、いろんな種類があるんだ。青磁は其中で、一番高い温度で焼き上げる焼き物の仲間なんだ。そして、青や緑っぽい色をしたガラス分の薬がかかっているんだよ。高級な焼き物の代表格だね。 左の方にたての濃い色の線がみえるけど、それはこの器についていたもともとの文様なんだ。するどい刃物でうつわの表面を削り込んで描かれたんだよ。そのあと、うわぐすりをかけると、文様のところにあつくうわぐすりがかかるので、焼き上げたときには深い色あいの文様になるんだ。 こういう文様やうつわの形、うわぐすりの様子などから、この茶わんは、中国の宋（そう）という時代、12世紀の後半ころに作られたものだっていうことがわかるんだよ。日本でいうと、平安時代のおわりから鎌倉時代のはじめのころ。

問題の答えあわせのところで、この茶わんと浦和御殿は「400年以上も年代がちがうぞ!？」っていう、だれかの声が聞えて来たね。そう! そのとおり。こういうときは、単純にいうと、次の三つの場合が考えられるね。

その1 12世紀後半頃に浦和御殿のあたりで茶わんが使われた

その2 12世紀後半頃に作られた茶わんが浦和御殿で使われた

その3 浦和御殿とは関係ない

まず、その1は、浦和御殿ができる以前に、その場所で青磁の茶わんが使われていた、ということになるね。これは、出土品の年代どおりに人の活動があった、っていう考え方。

次に、その2は、古い時代のものがはるか後の時代にも使われた、っていう考え方だね。

最後に、その3は、何らかの事情で、他の場所から運ばれてきただけで、見つかった場所と出土品の年代とは関係がない、っていう考え方。浦和御殿を造るとき、あるいは明治時代以降にいろんな土地利用をするときに、別の場所から運んできた土の中にまざっていた場合とか、どこからかくわえてとんできたカラスがたまたま浦和御殿の場所で落としてしまった、とかっていうことがあるかな。

このような場合には、その出土品がどのような場所から、どのような状態でみつかったのか、っていうことがとても重要なんだ。この青磁の茶わんは、さっきの問題7のかいせつで使った「浦和御殿のがいよう（全体の平面）」の図で **B** としたところで見つかったんだ。しかもみつかったのは、江戸時代に地表面になっていた土の層。これだけでは絶対的な決め手にはならないけど、浦和御殿当時に使われていた可能性は否定できないね。少なくとも、明治時代よりあとにまぎれこんだものではないことはわかるね。

では、浦和御殿ができる前にその場所で使われていた、と考えることができるかどうか。こういう高価な道具を使う場所では、他にもいろんな道具がたくさん使われていたはずだね。でも、浦和御殿の発掘調査では、浦和御殿の時代より古いものは、ほとんど見つかっていないんだ（常滑焼のカメの破片くらい）。だから、この可能性も低いよ。それと、「茶の湯」が関東ではじまるのは鎌倉時代の後半のことだけど、本格化するのは室町時代のこと。この茶わんが「茶の湯」の茶わんとして使われたということは、焼き物として作られた時代よりもはるか後の時代に、「茶の湯」の道具として使われた、っていうことになるね。

「茶の湯」の世界では、古い時代の茶わんが「名物（めいぶつ）」などとして大切に使われることがあるんだ。実際、徳川家康の愛用の茶わんの中には、この茶わんと同時代の12世紀や13世紀の中国からわたって来た茶わんもたくさんあるんだよ。

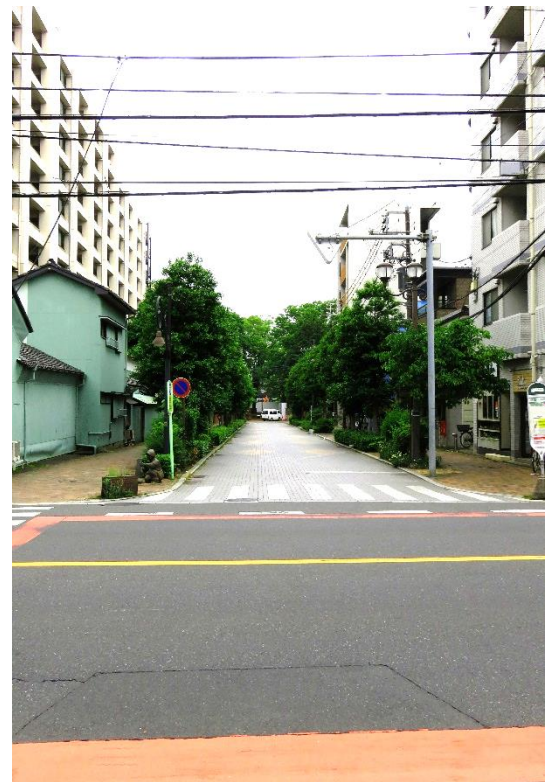
さて、長々、うだうだといろんな可能性を考えてきたけど、総合して考えると、この茶わんは、浦和御殿があった時代に、その中で使われた可能性は十分にある、ってことになるね。浦和御殿が、徳川家康の鷹がりの時に泊まるための場所であったときに、その中で使われた重要な遺品（いひん）、それがこの茶わんかもしれないね。さらに・・・もしかしたら、この茶わんを使って、徳川家康がお茶をたてたかもしれないんだよ！・・・・おっと、いけない！もうこれは、資料にもとづいて過去の世界を解明する、さいたま考古はかせが言っているはんいをこえちゃったよ🙅。想像（そうぞう）は大切だけど、憶測（おくそく）と願望（がんばん）は別にしないとさいたま考古はかせ失格、ぱかせになっちゃうよ・・・😞。

でも、想像に身をまかせてみると、この茶わんを使ってどんな部屋でお茶をたてたんだろうとか、発掘で出土したっていうことは、修復（しゅうふく）できないほどに割れてしまったから捨てられたのかもしれない、じゃあ、もし家康の大切な茶わんだったとしたら、それを割ってしまった人は、どうなっちゃたんだろう、とか、いろんな想像がうかんでくるね。過去の世界を旅するときが一番大切なのは、資料にもとづくこと、確かな根拠（こんきょ）を探すことだけど、旅がめざすのは、その世界に生きた人のことだと思うよ。まずは資料＝「もの」の世界をじっくり読みとぎながら、資料のむこうがわに人の姿をさがしもとめていきたいなあ。

浦和御殿は、さいたま戦国のおわり、そして新しい時代のおとずれを物語る遺跡だね。その中で使われた可能性のあるこの茶わんは、時代の転換（てんかん）を象徴する大切な遺品だっということができるね。

■浦和区・浦和御殿（うらわごてん）出土

■12世紀後半



浦和御殿のあと（正面。手前の道は中山道）

浦和区にある常盤公園が浦和御殿のあと。街道（のちの中山道）からおよそ100mほど奥まったところに造られました。